

各関係機関長 様

熊本県病害虫防除所長

ミナミアオカメムシの発生状況と大豆における防除対策（技術情報第12号）
について（送付）

このことについて、下記のとおり取りまとめましたので、業務の参考に御活用ください。
記

ミナミアオカメムシの誘殺数が平年より多い状況である。今後、水稻の収穫後に大豆に移動し、被害が発生する可能性がある。今後の気象条件は、本虫の増殖に好適な条件が続く予報となっているため、発生に十分注意し、発生ほ場では薬剤散布による初期防除に努める。

1 現在の発生状況

合志市に設置した予察灯における7月第1半旬～9月第3半旬のミナミアオカメムシの誘殺数は、218頭（平年150.8頭）と平年より多い状況が続いている。特に、8月第4半旬から増加傾向にある（図1）。

2 今後の発生予想

水稻でカメムシ類（ミナミアオカメムシ、アオクサカメムシ等）が発生している周辺の大豆ほ場では、水稻収穫後に集中的に移動してくることが懸念される（図2）。

福岡管区气象台が9月12日に発表した九州北部地方1ヶ月予報によると、気温は平年より高い予想のため、大豆に被害を及ぼす吸実性カメムシ類の増殖に好適な条件が続くことが懸念される。

3 防除対策等

- ほ場周辺の雑草（野生寄主植物）は、結実前に除草する。
- 被害が予想される場合には、子実肥大初期（開花30～40日後）に1回防除を行う。
大きな被害が予想される場合には、莢伸長後期（開花20～30日後）と子実肥大中期（開花40～50日後）に2回防除を行う。2回防除してもカメムシ類の密度が高い場合は、追加で3回目の防除（2回目の10～14日後が目安）を検討する。
- 虫の種類によって薬剤の効果は異なるため、防除の際には、発生している種類を確認して、効果の高い薬剤を選定する。なお、ミナミアオカメムシやアオクサカメムシに対するピレスロイド系（IRACコード：3A）の効果は劣る。
- 薬剤抵抗性の発達を防ぐため、系統の異なる薬剤のローテーション使用を行う。
また、薬剤の使用時にはラベルに書いてある登録内容を確認して使用する。
- ハスモンヨトウ若齢幼虫による白色化した被害葉（白変葉）が認められる場合は、同時防除を検討する。
- 熊本県病害虫防除所のホームページに掲載しているカメムシ類とハスモンヨトウの誘殺状況（<https://www.pref.kumamoto.jp/soshiki/75/201915.html>）を確認し、防除の参考にする。

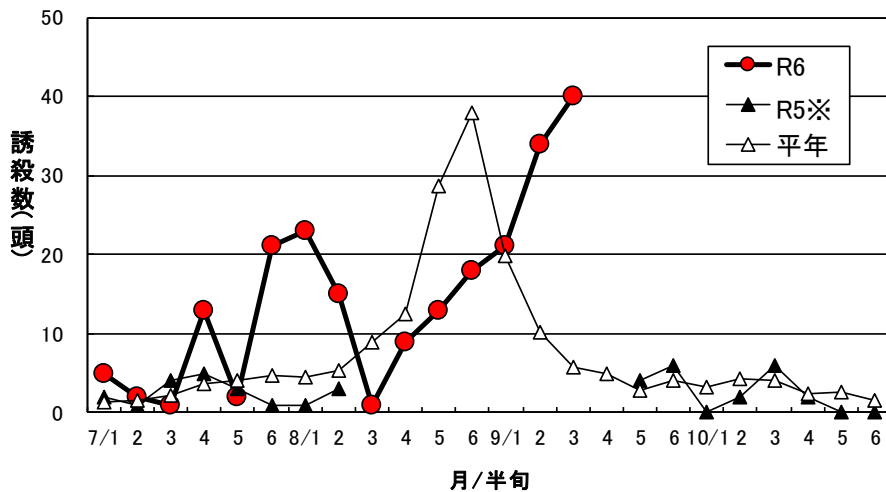


図1 合志市栄予察灯のミナミアオカメムシ誘殺消長
 ※R5は8月第3半旬～9月第4半旬欠測



ミナミアオカメムシ成虫※1



アオクサカメムシ成虫※1



イチモンジカメムシ成虫※2



ホソヘリカメムシ成虫※2

図2 大豆に被害を及ぼす吸実性カメムシ類

※1:水稲では斑点米の原因となる種、 ※2:水稲では問題とならない種

熊本県病害虫防除所

(熊本県農業研究センター 生産環境研究所内) 担当: 守田

TEL 096-248-6490 FAX 096-248-6493